

## 第6回公立大学法人島根県立大学中期目標検討のための有識者会議 議事要旨

### 1. 日時

平成29年11月14日(火) 13:30~15:30

### 2. 場所

ホテル白鳥 鳳凰の間

### 3. 出席者

(委員)

古瀬座長、近藤委員、佐竹委員、青委員、竹内委員、今井委員、久保田委員、秦専門委員、山本専門委員、木村専門委員

(事務局)

松尾総務部長、藤井総務課長、高宮私学・県立大学室長、井上企画幹、梶主任主事

(公立大学法人島根県立大学)

清原島根県立大学理事長・学長、小池副理事長、江口副学長(浜田)、山下副学長(出雲)、岸本副学長(松江)、井上学長特別補佐、山崎事務局長、土井事務局次長、松村事務室長(出雲)、柴田事務室長(松江)、福間企画調整室長

### 4. 会議の概要

#### (1) 資料説明

- ・ 島根県立大学より資料説明
  - ・ 参考資料1 平成24年度学生生活調査
  - ・ 参考資料1-2 平成28年度卒業生アンケート
- ・ 事務局より資料説明
  - ・ 資料1 提言書(案骨子)
  - ・ 資料2 提言書(案)

#### (2) 意見交換

##### ■ 提言書について

##### ○ 委員

- ・ 松江キャンパスのあり方について、社会人リカレント教育を踏まえた大学院のあり方について検討する必要がある。
- ・ 北東アジア研究について、大学組織としての研究は、県に貢献する研究内容・分野に変更していく必要がある。

- ・ グローカル人材の育成では、島根県立大学ならではの、人材モデルを作っていく必要がある。
- ・ 地域に根ざした、シビックプライドを持った人材育成が必要。
- ・ 後は、具体的に大学改革を進めていくかどうかである。

○ 委員

- ・ 大学における地域貢献活動は、地域の協力や理解によって成り立つ相互性を有している。その点を踏まえて、しまね地域共生研究センターが核となった、地域に関する教育・研究を進めていただきたい。
- ・ 地域貢献を進めるためにも、ガバナンス改革は必要。学長補佐体制を強化しながら、迅速に対応していただきたい。また大学の質の向上には、P D C Aサイクルをまわすことが必要条件。

○ 委員

- ・ 大学の4つの方向性がよく整理されている。また、大学のガバナンスについて明記されたことは、大学運営では非常に珍しく、画期的と思う。あとは、いかにこの提言を具体化していくかである。

○ 委員

- ・ 栄養面では、四大化により、今後より深い高度な学びができることと思う。県立大学として期待している。

○ 委員

- ・ 県立大学として大切なことは、地元貢献する気持ちをもった学生を輩出することである。

○ 委員

- ・ 内閣府からは、子どもの人間力（ヒューマンクオリティ）を高めるような保育指針がでており、子どもが豊かに育つためにも、小さい頃からの教育も必要。

○ 委員

- ・ 看護博士後期課程の設置により、より高度な、地域に貢献する看護人材の輩出に期待する。

○ 委員

- ・ 提言書内に、国際交流協定の実績を踏まえた見直しとあるが、見直しと同時に、新たな関係性を構築していく姿勢も必要。

○ 委員

- ・ 公的認証機関による大学認証評価は、3巡目に入り、内部質保証、3つのポリシー、FDが重点的に評価される。
- ・ また学長のIR（大学でデータを集め、大学運営にどのように判断しているか）が重要になってくる。

■ 提言書の今後の取り扱いについて

- ・ 今回の議論を踏まえた、報告書の最終調整は、座長に一任された。